

東京都市大学 緑土会・工学部都市工学科 主催
第15回 プロジェクトマネジメントセミナー
—設計・施工を変革する BIM/CIM の最先端—

土木学会認定 CPD 講座
(認定番号 JSCE16-0508)



世界的には、3Dモデルとコスト・時間を一体的に取り扱う BIM (Building Information Modelling) の利用が建設分野でも急速に進んでおり、わが国でも、国土交通省が主要課題と位置づけ、CIM 社会基盤への活用が図られつつあります。そこで、今回のセミナーでは、CIM(Construction Information Modelling)に関して、建設コンサルタント及びゼネコンにおける第一人者のお二人に、ご講演をいただきます。CIM は決してコンピュータに関する話のみではなく、建設事業をトータルにマネジメントしてゆくマネジメント論がより重要です。多数のご参加をお待ちいたします。

講師

株式会社大林組 土木本部本部長室情報技術推進課

杉浦 伸哉氏

「i-Construction は、本当に革命か」

八千代エンジニアリング株式会社技術推進本部情報技術部

藤澤 泰雄氏

「3D 地形による設計プロセスの変更」

日 時：2016 年 10 月 19 日 (水) 14:00-17:00

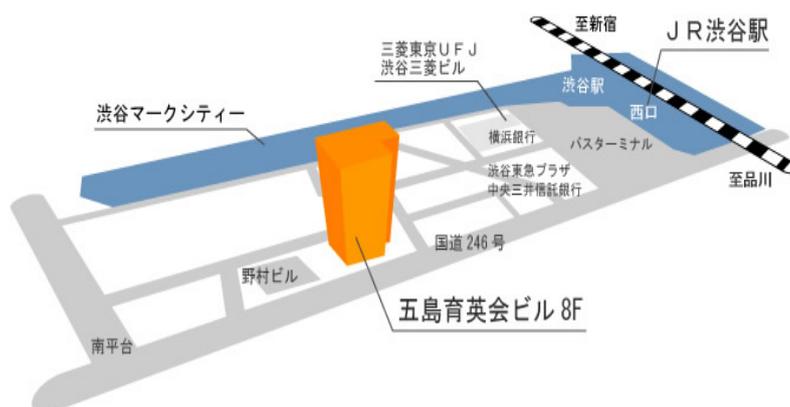
場 所：東京都市大学 渋谷サテライトクラス

東京都渋谷区道玄坂 1-10-7 五島育英会ビル B1 階

参加費：2,000 円を当日徴収いたします。なお、学生は無料とします。

意見交換会：セミナー終了後、意見交換会を行います。

意見交換会の会費は実費といたします。(17:30-19:00)





—設計・施工を変革する BIM/CIM の最先端—

本セミナーは CPD プログラムとして土木学会に認定されています (認定番号 JSCE16-0508)

参加者名簿 (敬称は省略させていただきました。)

卒業年	お名前	ご勤務先
S35 土	山田 秋夫	(株) 中央都市開発コンサルタンツ
S41 土	船越 靖彦	トップライズ 他お二人参加
S43 土	松田 洋紀	建設マネジメントセンター, 本学社会人修士
S44 土	青木 良雅	元大成建設
S45 土	大浦 幹男	ヒロセ
S47 土	小林 哲男	東洋電機工業
S51 土	松浦 弦三郎	松浦技術士事務所, 本学非常勤講師, 本学社会人修士
S53 土	平本 公男	世紀東急
S53 土	黒沼 良彰	大林道路
S54 土	松岡 茂	鉄建
S54 土	皆川 勝	東京都市大学
S55 土	小原 丈二	小田急エンジニアリング, 本学社会人修士
S58 土	萩原 秀司	世紀東急
一般	岡本 健さま	竹中土木, 本学社会人修士
一般	小林 喜久子さま	アーク情報システム
一般	志太 峰之さま	東洋電機工業
一般	畑さま	大林道路
一般	福島さま	大林道路
教員	今井 龍一	東京都市大学
学生	山田 実典	東京都市大学都市工学科 4 年生
学生	秋本弦太郎	東京都市大学都市工学科 4 年生
学生	田中 拓也	東京都市大学都市工学科 4 年生
学生	大和 駿	東京都市大学都市工学科 4 年生
学生	伊藤 優太	東京都市大学都市工学専攻修士 2 年生
学生	藤岡 佳祐	東京都市大学都市工学専攻修士 1 年生
学生	高村 脩登	東京都市大学都市工学科 4 年生
学生	藤永 采子	東京都市大学都市工学科 4 年生
学生	葦沢 隼	東京都市大学都市工学科 4 年生

BIM/CIM セミナー要旨

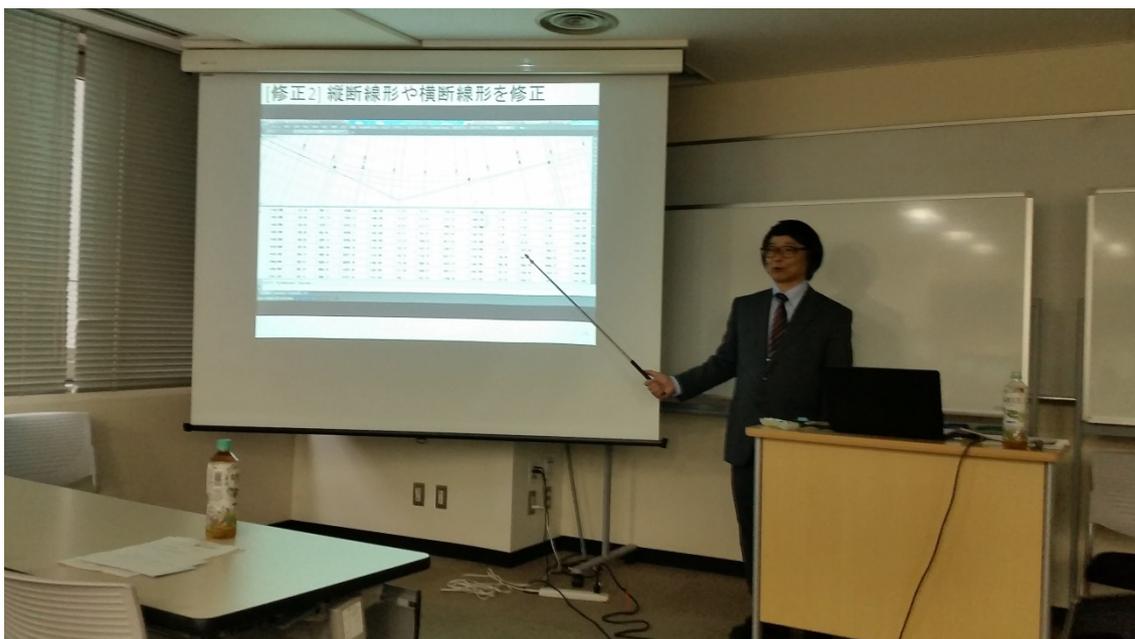
主に土工についてドローン等による 3 次元測量や ICT 建設機械による施工を含む、ICT 技術の全面的活用を進める施策である i-Construction、また 3 次元モデルに属性を加え、そのモデルを中心とした情報共有で設計の効率化を実現する CIM という手法などの動きが活発になりつつある現状において、果たしてそれらの高度化技術は実際の業務ではどのように使っているのか・本当にメリットがあるのか、といった踏み込んだ内容から、海外の動向やわが国の制度状況まで幅広い講演でした。

藤澤様の講演は BIM/CIM による設計で「一体何が、どのように可能なのか」を作業プロセスと図により明快に示しており、BIM/CIM に馴染みのない参加者にもとてもわかりやすいものでした。

杉浦様の講演では 3 次元図面が現場でどのように始まったか、用いられているのかを実際の写真を示しながら「3 次元への抵抗とその超克」という明確なストーリーが示されており、抵抗を乗り越えてまず試してみることから始めようという主張には強い説得力を感じました。

写真による BIM/CIM セミナーの様子は、

多くの社会人 現役学生の参加に興味意欲を感じます。こちらはコンサル型セミナー



こちらは現場型セミナーです 両者のコラボに時間の経過がわからな程集中しました。



聴講の皆さん 真剣です。





しばしの休憩タイム セミナーの余韻を多々残しています。



